



梅に、桜に、開花の季節。

あっというまに3月になってしまいました。。

出発まで半年を切りましたね。まだまだ想像がつかないところはいっぱいあると思いますが、わからないところはROTEXに積極的に聞いてみましょう。

今月のR2のテーマは「言葉の壁」です。

日本語が無い文化に飛ぶ込む訳ですから、気になるところ、どう身に付けていったのか、言語を習得するとはどういうことなのか、ROTEXの声を参考にしてみてください。

また、今月の特集は学校の授業教科についてです。

派遣先で受講していたクラス、おススメの科目について聞いてみました。

なかなか日本の高校では見られないものもあるので、興味深いと思いますよ。

さとう いっぺい

佐藤 一平 【2000年度オーストラリア派遣】

言語=いい仲間をつくる道具

言葉の壁は、結局、誰もがぶち当たる壁です。だから、まったく心配に思う必要はないものです。誰もがぶち当たるのですから、留学生にはことごとく、この壁が待っています。要はどう乗り越えるか、それさえ知っていれば、こんなに簡単な問題はありません。乗り越え方には人それぞれのやり方があり、正解はありませんが、これから書く私の言葉が、留学生のみなさんの力に少しでもなればと願っています。英語はたったの26文字です。英語が世界に広まった理由は、「簡単だったから」なことから分かるように、英語は簡単な言語です。日本人に英語が難しい理由は、音数（発音の数）が、英語の方が何倍も多いからだけです。日本語は50音+aですが、英語はもっと多いのです。

Editor: Kaori Utagawa Layout: Naoko Takahashi Desk: Yuuki Kabayashi and Ikko Nishiyama

よって最も手っ取り早く英語を自分のものにするために、「一から発音を自分の舌に覚えこませる」と考えていきましょう。はじめは自分でも変に思えるかもしれませんが、そのうちに慣れてきて、音がわかれば、耳も慣れてきます。英語を聞くコツは、日本語の音を、耳で探さないことです。慣れてきたら、ぜひ英英辞典を使って、英語をより簡単な英語で説明する方法を身につけてください。何事にも言えることですが、英語にも同じく、王道はありません。練習以外にないでしょう。

その上で、絶対に忘れてはいけないのは、言葉はあくまでも、ツールに過ぎないということです。「英語で何を伝えるのか」勉強しながらでかまわないので、これを考えてください。また、英語はテストでいい点を取るための勉強ではなく、いい仲間を、いい体験を作るためのものであることも忘れないでください。英語の習得度＝留学の完成度と考えるのは、あまりに早計です。

どうか自由に英語を学び、そしてルールを守り、安全に、そして快適な留学生活をおくって下さることを、切に願っています。「Green Day」の「Good Riddance」を留学中は聞いて頑張ってください。

こたに みぎわ
小谷 汀【2006年度フランス派遣】



生活の中に溢れている、習得するチャンス

英語圏に行かない人は特に言葉のことを心配していると思います。私はフランスに行く前、フランス語を週1で習っていましたが、最初に着いた時にはほとんど何も理解できず、しゃべれずといった状況でした。最初の一週間、英語を使ったりしたこともありましたが、ホストファザーに「理解できないから使わないで欲しい。」と言われたことをきっかけに、フランス語だけを使うようにしました。習いたてのフランス語を積極的に使ったことで1ヶ月もすれば、自分の意思を伝えられる程度に上達していたと思います。間違いなんて気にしないでとにかく話しまくるのが大切です！そうすれば日常生活に必要な程度の語学力はすぐに身につきます。

またライティング力や読解力アップのためにホストファミリーと一緒に絵本を読んだりしました。テレビや映画、ラジオ、雑誌、本、漫画など日常的にその国の言葉に触れるチャンスは山ほどあります。それを活用してレベルアップできるでしょう。

しかし問題は学校でした。学校の授業は普段使っているものより数段レベルの高い言語力が必要です。その上先生たちは早口でどンドンしゃべって授業を進めていきます。だから私が理解できた科目は英語・体育・数学のみでした。他の授業は何もわからず、自分だけ取り残された気分になったし、分からない自分に苛立ちを感じたりしました。ホストファミリーに手伝ってもらって宿題や文章の読解に挑戦したりしましたが、授業にはなかなかついていくのは難しく、その状況は日本に帰るまでほとんど変わることはありませんでした。今考えると何か一つの科目だけはがんばるという風に自分の中で課題を決めていけばよかった気がします。私の知り合いのカナダ人の子で、フランス語（つまり国語）の授業だけは真面目にがんばると自分の中で決めて、課題に出される本や宿題を全部こなし、1, 2学期の成績はふるわなかったものの3学期目にはクラストップの成績を修めたというエピソードがあります。

言葉はその国を表すもっとも重要な文化のうちの一つです。せっかく留学に行くのだから、日本語に離れて、（英語圏じゃないなら英語に頼らずに）派遣国の言葉漬けになってみてください！

話す勇気から生まれるもの

言葉の壁…アメリカ合衆国へ派遣された私ですが、私にとってこの壁はとても厚いものでした。英語は得意だと思っていましたし、学校でも青少年交換でも外国人学生の友達と話すことが大好きでした。ですが、実際サウスカロライナ州へ派遣されてみると、どれほど自分の英語力が低いのかを思い知らされました。相手が何を言っているのかもわからないし、自分の英語も通じない。このショックは私にとって、とても大きいものでした。そしてそこから、最悪な問題も派生しました。英語でコミュニケーションをとることが怖くなってしまったのです。HF と話すことへも、学校で話すことへもおっくうになってしまいました。

自分でもこれではいけないと思っていました。ですが、どことなく積極的になれない。そこから起こるマンネリ化した留学生活…。そんな時です。私の留学仲間が私を叱ってくれました。「会話は頑張らなきゃ！日本じゃこんな機会はないんだから！喋らなきゃ、絶対喋れるようにならないって！怖がらないでー!!」と言ってくれたのです。当たり前のことですね、喋らなくては喋れるようにならない。そして自分は実践するのに最高の機会に恵まれている。この当たり前のことに気づかされてから、喋ることに積極的になれました。

人とコミュニケーションが取れることは、やはり嬉しいし、楽しいのです。話す勇気を得てからは、HF とも、そして学校でも楽しいと感じられる時間が増えました。肝心なのは、自分の置かれた場に感謝すること、そして積極的になることが、留学での問題を解決する上での最大の鍵なのだと思います。

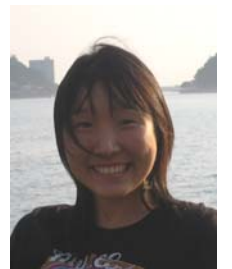


日記で広がるコミュニケーション

言葉・・・一番苦労したことであり、できれば、できるだけ楽しくなってくるものでした。わたしが、どんな風に言葉の壁を乗り越えたかという、とりあえず「聞く事」。はじめ会話の内容はもちろん、何について話しているかさえ分からなくても、家族や大勢で話してる時など、なるべく顔を出して、そのうち耳が慣れてきます。ある程度は、「ああ・・・今日もあんまり分からなかったなー」というより、「今日はこの単語拾えたなーヤッター」という要領で、考えると、辛さは半減です。聞けるようになると、こっちのものです。あと、もうひとつは、現地の友達とメッセージ（*インターネットのオンラインでチャット）をする事、辞書を引き引きでも、友達がミスを直してくれたり、かなり良い勉強になりました。それと共に、友達とも仲良くなれちゃう一石二鳥ですね。言葉が分からなくても、あいさつはできますね。そして、ニコッとジャパニーズスマイルでオープンな気持ちで構えていると、自然と相手も近づいてきてくれて、助けてくれます！大丈夫です！私は abc から始めました。筆記体を書けなくて・・・読めなくて・・・そこから教えてもらいました。

日記を書くのも、オススメです！始めは、短文で「私は〇〇を食べた、見た、やった、いった、買った」など、ささいなことでも、日記を書き、友達や家族に見てもらおうと良いと思います。みんなとても興味を持ってくれるし話題が広がります。

そう！間違いを恐れず、挑戦を続けてください。そして、相手の言っていることがわかって、自分の言いたい事が表現できるようになるには、それなりの時間が必要で、焦ってなんとかなるものでもない、焦らず、地道な積み重ねは必ず自分に返って来ることを胸にしまっておいて下さいね。100%実証済みです。何で言葉ができないのだろうと行き詰ることもあるかと思いますが、人は人です。与えられた時間はたっぷり1年間！されど1年！もちろん言葉を学ぶだけが全てではないし、自分のペースで良いのです。



ただ・・・壁を乗り越えたあとに待ってる生活は、留学生生活をより有意義にしてくれる、ものになるでしょう！

バックナンバーより「ことばの壁」(vol. 8 Apr, 2006)

大竹美輝 台湾派遣

ロータリーの青少年交換プログラムでは、言語の習得が1つの目標として掲げられます。なぜ言語を習得する事が重要なのでしょうか。私は、台湾に派遣させていただき、中国語が全く話せない状況から留学生活が始まりました。しかしホストファミリーや友人達は、優しく中国語のABCのような基本的なものから、だんだんと難しい文章と、とても丁寧に教えてくださいました。みんなのお陰で、私が始めて話すことが出来た中国語は「可以去洗澡嗎(お風呂に入っても良いですか)でした。初めてには変な一言のように感じますが、初めてホストファミリーに理解してもらい、「どうぞ」と言ってもらえた時にはとてもかんどうし、私の忘れられない言葉になりました。そしてだんだん色々なことを話せるようになり、友人も多くなり、台湾での生活が楽しくなってゆきました。言葉が話せるようになると、話せなかった時とは比べられないほどに多くの友人ができました。そして友人達とたくさん話することで台湾や友達のことが分かるようになり、台湾と友人達がもっと好きになりました。

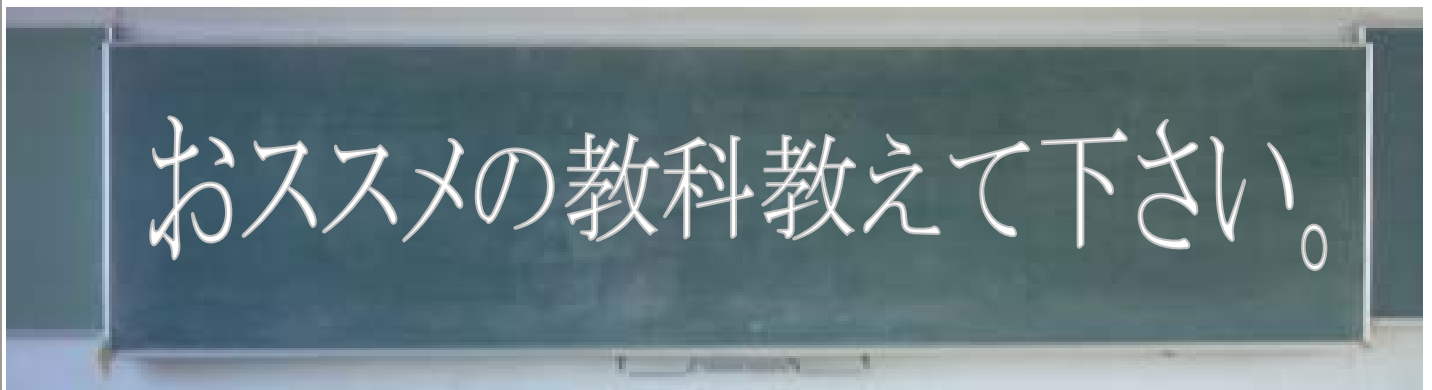
外国語とは当たり前のことですが文化の1部だと思えます。そして、派遣国の言葉を学ぶ事はその国を理解する第1歩だと思えます。留学し、その国に1年間いるだけではなく、その国の生きた言葉を学ぶ事からその国の人達の心を少しずつ理解できるようになるのではないかと思います。

小ネタ特集

学校生活、、先月の特集では、おススメ教科です。

派遣先で待つ授業の数々、どんな教科を受講していたのか聞いてみました。

せっかくなら日本で勉強できない楽しいこと学びたいですよ。



【アメリカ】

- ・インフォメーションメディア、アメリカ史、アメリカ文学、家庭科、美術。

私は美術が好きだったので、留学先でも履修しました。日本で得意な科目を留学先でも履修すると、理解しやすいと思います。

- ・美術、物理、料理、数学、英語、体育、ESLをとりました。

特に好きだったのは美術、物理、料理、ESLです。何かしら友達と共同作業で何かを作ったりしてコミュニケーションを図れるので、楽しんですることが出来ました。座って一方的に講義を受ける授業もいいですが、友達と一緒に何かをするような授業はお勧めだと思います。

- ・進級するために単位が必要だったので、美術、体育など簡単で単位がとりにくい教科をとりました。

Jewelry Making、Photograph などちょっと珍しい教科もとりました。おススメはそういったその学校独特の教科です。

- ・写真、アメリカ史、数学、ドイツ語、体育、ステンドグラス、、おすすめは体育。運動は友達を作るいい方法だから。自分が得意だったのも理由のひとつです。
- ・受講していたクラスは・・・数学、化学、基礎学習、米歴史、心理学、社会学、English4、ESL、経済、政治でした。私自身が社会学に興味があったので、その科目が一番興味深かったです。
- ・英語、数学、アメリカ史、アート、マリーンサイエンス、SGA (student government association)、アメリカ経済、アメリカ政治、日本語。好きだったのは断然 ART のクラスです。英語、アメリカ史の先生とはとても仲良くなって本当に大好きでした。SGA では日本で言う生徒会実行委員みたいな活動を授業としてやっていました。そこでも英語を練習できたと感じました。

【オーストラリア】

- ・数学、音楽、社会、生物、家庭科など (必修) 宗教、英語
家庭科では、毎週料理をするので、その国の料理を勉強できて良いと思います。
音楽は他の教科に比べて専門的で課題も多かったので大変でしたが、発表の機会などもあって楽しかったです。
- ・音楽・美術・日本語・英語・数学・キリスト教
日本語は英語で日本語を学ぶのでとても面白いです。先生と一緒にみんなの前で漢字や会話を教えたりしました。折り紙や日本の流行り物を紹介したり、友達を作る最高の場です。

【カナダ】

- ・1st (前期) →音楽、数学、クッキング、英語 2nd (後期) →保育、美術、写真、英語
クッキングはすごく楽しかったです。体育が出来る子は体育も良いと思います。自分の得意分野が活かせる教科を選べれば楽しくなると思います。
- ・体育は宿題も少ないですし、友達と話せる機会が多くていいと思いました。また私が取った Jazz のクラスも良かったです。

【韓国】

- ・選択科目は第二外国語しかなかった。中・日・独があったが強制的に日本語にさせられました。でも今思うと、日本語クラスになったからこそ日本に興味を持っている子が多く友達が作りやすかったと思います。(理系クラスと文系クラスではだいぶ勉強する内容が違うが、理系にいくか文系にいくかは選ばせてもらった。)
- ・日本語の授業をとりました。
他の授業は選択制ではなかったので、日本と同じように教室で普通に受けていました。

【台湾】

- ・教科については、日本の高校と同じようにほとんどが必修科目であり、選択科目はほんの少ししかありませんでした。その選択科目では、第二外国語だったので、日本語を履修しました。その授業では、授業の手助けをしていましたが。

【スウェーデン】

- ・私のクラスは、ドラマや音楽・美術のクラスだったので、数学や英語・スウェーデン語など普通の授業以外にフィルムの歴史や美術などの授業を取ることができました。どの授業も日本とは違うプログラムで面白かったですが、「数学」の授業は特にオススメです！
日本で勉強している数学はレベルが高いので、言葉が分からない国でも(スウェーデンでは)、数学の授業で困ることは余りありませんでした。計算問題などは特に説明も要りませんし、問題文も私は先生が分かりやすく訳

してくれたので、みんなと同じように授業に参加できました。それに、全てスウェーデン語で書かれている教科書でも、知識があれば、ただの数学の教科書ではなく、スウェーデン語を勉強するためのいい本にもなると思います。

【フランス】

- ・フランスの場合は高2からだいたいS(理系)、ES(社会経済系)、L(文系)に分かれていたので、そのコースを決めるとたいの授業は決まってきます。

【ブラジル】

- ・残念ながら、ブラジルでは全員が全く同じ勉強をします。特に基本時な科目しかないので、音楽や美術や家庭や技術など、芸術的教科がなかったので教科的には楽しめなかったです。

オススメー—————体育 ！

- ・選択制ではなくクラス制だったので、自分のクラスが受けている授業を聞いていました。

【ロシア】

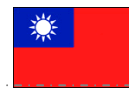
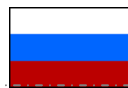
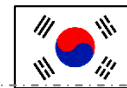
- ・国や地域によって異なると思いますが、日本語と英語があればコミュニケーションなど最初のうちは助かると思います。
- ・体育(たまにしかありません)

体育が人気ですね。



授業も、友達をつくるきっかけの場所ですね、それに伴って言葉の習得も早まりそうですね。

来日学生にどんな勉強をしているのか聞いてみるのも参考になるかも。。。



R²は当2780地区多くのローテックスの方々、ガバナー事務所の協力を基に発行されています。

多大なる尽力に感謝いたします。

R²編集長： 宇多川薫 (2002年度アメリカ合衆国)